

第3回酒田市総合計画審議会文教部会会議録

日 時 平成18年10月17日(火)午後1時30分~午後3時15分

会 場 酒田市役所 議会会議室

出席者

・ 部会長

佐藤 英治

・ 副部会長

小松 隆二

・ 委員

大井よ志子

佐藤 昌則

齋藤 義明

齋藤 龍彌

柴田 俊弥

・ 欠席委員

本間 清和

和田 明子

山中 俊

・ 事務局職員

松本 恭博

五十嵐龍一

阿部 雅治

土田 正

梅木 仁

兵藤 芳勝

小松原和夫

武田 政紀

齋藤 豊司

土井 一郎

松田 文夫

須貝 彰

齋藤 善和

杉原 久

阿部 勉

菊池 裕基

大谷 謙治

前田 茂男

佐藤 瞳

協議日程

部会長あいさつ

1. 開 会

2. 報 告

(1) 総合計画まちづくり意見交換会について

(2) 総合計画まちづくり50人会について

3. 協 議

(1) 酒田市の現状と課題(案)について

(2) 文教部会重点項目について

4. その他

5. 閉 会

開会 午前 10時00分

部会長あいさつ ・ 1. 開 会

事務局(杉原 久) 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは部会長より開会をお願いします。

会長(佐藤英治) 今日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。時間も大変少ないと考えますので、さっそく審議に入りたいと考えます。本日の欠席は、本間清和委員、和田明子委員でございます。また、山中俊委員がただ今「酒田市公益のまちづくり賞」を受賞されまして、授与式に出席のため遅れるとのこと。定足数に達しておりますので、直ちに会議を開会したいと思います。

2. 報 告

会長(佐藤英治) それでは、早速次第に従って会議に入ります。初めに報告事項(1)総合計画まちづくり意見交換会及び(2)総合計画まちづくり50人会について一括して事務局より報告をお願いいたします。

事務局(阿部雅治) それでは、資料に沿って報告いたします。事前に意見概要シートを送付させていただきましたが、今日お配りの資料の「総合計画策定状況」に沿って説明させていただきます。総合計画の各部会は、8月1日から8月8日まで開催いたしました。この内

容については議事録等を送付しておりますので内容等は省略させていただきます。

次にまちづくり意見交換会ですが、7月13日から9月1日まで酒田市全域に中学校単位で出かけていって市民の方々から意見をいただきました。延べで326名参加しております。内容を意見シートで説明します。まちづくり意見交換会とまちづくり50人会で若干意見の聞き方が違うので、後の集約内容も違ってきております。それについて最初に説明させていただきます。まちづくり意見交換会については、市民の方から各公民館などの会場に中学校単位で集まっていたいて意見をいただいたものでございます。「酒田市の現状と課題」を当日配布いたしました。全部読んでいただく時間がなかったので、概要を説明後に普段自分が考え、感じている酒田市のこと、地区に関する事について既成概念に捕われない意見をいただきました。内容は後ほど説明します。

それからまちづくり50人会は、一般公募で団体推薦を含む50人程度のメンバーを集めようというもので、一般公募34名、団体推薦24名、全体で58人となり、定員をわずかに越えましたが、応募者全員に参加いただいております。年齢構成については高校生から70歳以上の方まで広範囲にわたっていますし、女性も13人参加いただいております。開催については8月9日から8月31日まで3回にわたって行いましたが、58人ですので4つのグループに分かれて意見をいただきました。これについてはメンバーが確定しておりますので、事前に現状と課題を送って、一読の上、ご意見をいただきました。審議会の皆さんと同じ認識の中で意見をいただいているということです。そういうことで意見をいただきましたので、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会は全体的に見ますと異なった意見が出されました。

次に、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会を累計別に見ますと、聞き方が違ったことでベスト10だけを見ても違いがあります。まちづくり意見交換会は、市民の生活に係るような身近な課題が多いようです。順位は目安ということで考えておりますが、例えば両方ともベスト10に入っているのは、観光振興、都市整備、学校教育です。その他にもコミュニティ活動や林業の振興についてもかなり上位に入っています。それでは、出された意見について若干の説明をさせていただきたいと思います。

資料説明。 - 省略 -

部会長（佐藤英治） 前回8月4日のこの部会終了後、事務局からは大変精力的に各会を開

催いただきまして、いわゆる市民参加型の計画策定に向けて意見聴取をしていただきました。この部会に関する意見を数えてみますと、百数十件ほどいただいております。教育、文化、スポーツに対する市民の関心の高さは際立っている感じがしました。身近な問題であるといった理由もあるかと思いますが、それだけに際立っている感じです。このことについて、ご質問や関連事項等何かありますでしょうか。事務局にお聞きしますが、市民の方からの意見聴取というのは、これで一応終わりということになりますか。

事務局（阿部雅治） 現状と課題についての市民意見を聞く会はこれで終わりになりますが、次の基本構想を作成した段階で、もう一度同じように市民の方から意見をお聞きする、あるいはアンケート調査をしたいと考えています。

部会長（佐藤英治） 丁寧な進め方を考えておられるということですが、ご質問ございませんでしょうか。それでは現状と課題については、次の3．協議事項の中で出していきたいと思っております。それでは2．報告事項を終わらせていただきます。

~~~~~

の立ちねぶたを研修されるということでしたが、話の糸口として、他都市の状況もご紹介いただきたいと思います。

委員（佐藤昌則） 五所川原の町を見ますと、まつりが住民の一体感を醸成しているように感じました。やる気のある方がいっぱいいて、1つにまとめるのは大変だろうと感じましたが、何か1つまとまりがある町というのも魅力的に感じました。夜本番、子ども達は学校単位で参加しており、学校の先生が先頭で子ども達を連れて練り歩いている状況でした。大変素晴らしいと思いました。酒田でも、まつりを単にイベントとして捉えるのではなく、伝統文化あるいはこれからも受け継いでいかなければならない酒田市の行事としてとらえられたら、学校教育の一環として子どもたちがまつりに参加することも不可能ではないと思います。まつりは神様のものということでは宗教的な面もありますが、自分の住む地域と神社を結びつけて地域の歴史や文化として掘り下げていけば、きっと教育につながるので大事にしたいと思います。ちなみに五所川原は神様のまつりではありませんでした。

部会長（佐藤英治） まつりということが各都市で復活しております。この夏、私は新庄まつりに行ってまいりました。この中にも行かれた方がいらっしゃるのではないかと思います。市民総力で取り組む姿がありありと見えて、大変好感を持ちました。ああいうところがまつりの不思議魅力だと思います。景気が低迷している中、町内ごとに21台もの山車を作るには経費もかかり大変ですが、老若男女が一緒に引いて盛り上げていました。このような町内ひいては市の一体感は、おそらく学校教育の中でも色々な波及効果があるだろうと感じてきたところです。

委員（齋藤龍彌） 1月に音楽仲間とハンガリーに行ってきました。ハンガリー民族は、西暦1100年頃にウラル山脈のあたりから移住し、今は民族系統がはっきりわからないほど同化しています。一行は、ソルノクという人口10万都市の他、色々な都市を見て回りました。その中に人口2万人ほどの小さな町があり、有名な作曲家コダイの名を採ったコダイ芸術学校を公費で開設していました。校長先生もおいでになって、学校のすぐそばの教会で、私にスピーチの機会が与えられました。日本について話をするようになったのです。日本の家庭はすっかり西洋化してしまいました。子どもは30何人かの音楽活動もアメリカ方式です。今まで培ってきた日本の伝統文化を育てなければならない、子々孫々に伝えなければならないということを痛切に教えられました。ぜひ酒田に帰ったら報告をしたいとスピーチを結びました。民族の誇りまたは郷土愛ということを考える必要があると思いましたので、一言だけ触れさせていただきました。

部会長（佐藤英治） ありがとうございます。他に関連することはございませんでしょうか。合併で酒田市が1つになったといっても八幡、松山、平田という地域の特色は残すべきではないかなという感じがします。

委員（大井よ志子） 私も竿灯まつりに行ってきました。竿を自由に操る技は圧巻でしたが、誰でも簡単にできるものではないです。一番小さい5kgの竿で一生懸命チャレンジする小さい子どももいました。見ている人たちも一緒に掛け声をかけている様子が素晴らしかったです。市長さんのあいさつも最後は英語でした。市全体の取り組みとして世界的にも有名なまつりは一味違うなあと感じました。

部会長（佐藤英治） ありがとうございます。他ございませんでしょうか。ないようでしたら、現状と課題の取りまとめについて事務局から説明していただくということでいかがでしょうか。

事務局（阿部雅治） 現状と課題のとりまとめですが、市民の方のご意見あるいは審議会、部会での協議内容、ご意見を取りまとめ、全庁的に内容を精査し、事務局で修正、加筆させていただきたいと思います。できれば10月末くらいまでに仕上げ、最終的なものとして委員の方々にお配りしたいと思います。部会で出された意見や今日の意見なども取り入れながら加筆・修正いたしますのでよろしくお願いいたします。

委員（小松隆二） 現状と課題をまとめるにあたっては、教育関係者や市民が読んでもこれはいい提案だとわかるような何か具体的なものが出ないかと思っています。今、歴史や伝統を大事にするということでしたが、酒田には本当にいい土台があるにもかかわらず、現状はいい教育ができていいのか疑問です。その辺が大事なところです。いい伝統を堅固なものにすることは、小学校・中学校・高校・大学も含めて、酒田独自に歴史や伝統を子ども達に確実に学んでもらうような教育を具体的に提言できるかどうかにかかっています。大変難しい要求ですけれども、酒田から酒田らしい教育のあり方を発信できたら面白いのではないかと思います。

部会長（佐藤英治） こういう時代にあって特に、形式的でなく具体的な提案をしていかなければならないということでしょうか。

委員（小松隆二） 教育現場の方でないといけないかもしれませんが、枠を越えた学校の統廃合などは、校舎をどこに設置するかといった形式的な単なる人数合わせではなく、よりよい教育に再編することが大事です。統廃合の意味やあり方は委員会で検討するわけですが、人口が減ったからといってただ統廃合してもあまり意味がないので、これからは酒田らしい

庄内らしい取り組みを発信すべきだと思います。

部会長（佐藤英治） 教育委員会中心になるかと思いますが、単なる数合わせではなく、学校の統廃合をきっかけとして発想を転換し、酒田の教育をより魅力的なものに作り変えていくことが大切だと捉えました。そういったお話もよろしくお願ひしたいと思います。なお、この後の重点項目を含めたご意見を出していただければと思います。現状と課題を下敷きとして、これから新しい基本構想、基本計画を策定する橋渡しのところに今差し掛かっているように思います。ただ今ご提言いただいたようなことも含めて話し合いに移ってまいりたいと思います。それでは現状と課題は事務局で取りまとめていただくということでもよろしいでしょうか。

（はい）

部会長（佐藤英治） そういうことで事務局をお願いいたします。それでは（２）文教部会の重点項目について、事務局が教育委員会と共に作ってくださった案をこれから皆さんより検討して頂きたいのですが、事務局でこのところをご提示いただければと思います。

事務局（阿部雅治） 説明する前に小松委員のおっしゃるような酒田市の売り、特徴という酒田らしさというものをこの中から１つでも２つでも出していけたらと思っております。それがないと総合計画の面白さ、意気込みというものが感じられなくなりますので、事務局でも色々検討いたしますが、委員の方からも意見をいただきたいと思ひます。ご審議の程よろしくお願ひいたします。

まず、今日最後の部会ですが、他の部会についても大体こういう形で重点項目を決めております。これから審議会に諮り、全体としても酒田市の売りというものを考えていきたいと思ひます。まず、「明日を担う心豊かな人づくり」という文教部会のテーマがあります。これは新市建設計画から引用したのですが、新しい総合計画もこの建設計画を尊重して策定するという事です。１つ目に「公益の心を育む学習活動の展開」とあります。公益にはボランティアや相手を気遣う心などいろいろな意味合いがありますが、そういった心を持った子どもを育てるためには、家庭、学校、地域が連携して取り組みむ必要があります。この10年間で幼児から中等教育までの一貫した取り組みや仕組みづくりに取り組んでいきたいと思ひます。それから「歴史・文化・風土を活かした人づくり・まちづくり」ですが、合併して各地域の魅力ある資源が多くなりましたので、歴史、伝統文化を含めた形で資源を活用し、人づくり・まちづくりを考えていこうという提案です。また「各種スポーツの振興」は、高齢化社会にあつては健康づくりが大切ということもあり、組織や指導体制のあり方な

ど色々な懸案事項の解決を図っていきたいと思っています。以上3点を提案させていただきましたが、前回、小中一貫教育について色々ご意見がございましたので、その点について教育委員会から資料をもとに説明させていただきます。

資料説明。 - 省略 -

部会長（佐藤英治） 事務局の方から小中一貫教育も含めて重点項目について説明がありました。最初にこの部分はどういう意味か、どういう内容かと言ったご質問等ありましたらどうぞ。

委員（佐藤昌則） 今、小中一貫ということで説明ありましたが、酒田において生活リズムに重点を置いて実施したということだと、具体的にどのような成果があったか説明をいただければと思います。

学校教育課長（梅木 仁） 生活リズムは二中の1回目の研究テーマになっております。2回目目が主体的な学習の習慣化づくりです。成果については存続する実践ということでご紹介いたしましたが、小学校から中学校への渡りが中一ギャップという話しにあるように、ハードルが高いという時代がありました。それを埋めていくために今酒田市でも色々な取組みがされております。それぞれを60年度からの研究委嘱校で取り組んできた中で、これを続けて行く方が子供たちのためにもよい実践であるということが今も続けられているという捕らえ方です。少し書かせていただいている実践あたりがその成果なのかなと思っているところです。

部会長（佐藤英治） 他ございませんでしょうか。

委員（齋藤龍彌） この間の建設部会の資料では、文教部会は2つの重点項目だったんですが、1つスポーツの部分が増えたと認識してよろしいですか。私は芸文の関係もありまして、ぜひお願いしたいと思っているのは、他の部会では大体4つか5つの項目があるところもあるようですので、1つは合併して芸文の関係については文化課が管轄になっているわけです。ところが旧3町については伝統芸能の部分については生涯学習課という形になりまして、この前の50周年の開幕式典では3町の方々は多少そういうものと合わないという感覚で、それをこれから行政の方でどのような形で埋めていくのか。伝統芸能とか先ほど申しあげたものが根底だから今の芸術文化もできたんだと思うわけです。ベートーベンとか私やってますけれども、それは明治以後の問題であって、その前は全て日本の文化という流れにあった

と思います。ですからそういうことを基本にしながら教育委員会で2つの課がありますけれども、旧3町のこともありましてちょっと疑問もあります。余計な話もしましたけれども、私はまず人間の基本は、公益という言葉がありましたように、一番大事なのは心ではないかと思っています。そのことを端的に様々な面で心豊かにするというなかに出てくるのは芸術だと思います。人間が生きている知恵すべてが文化だと思いますし、その中の1つの磨かれた人間でなければ持たれないのが芸術だと思います。そんなことでぜひ今の伝統的なものも踏まえながら、もう1項、芸術文化にも触れていただきたいなと思っている一人です。私、県の関係もやっていますけれども、知事に陳情に行った時に、県の芸文会議の会長が、それが人間の特性なんだと、一番大事なものなんだと申しあげているところですので、ぜひこの重点項目の1つに人間の最も最たるものというのは芸術文化だと思いますので、それを謳ってもらいたいと思います。

部会長（佐藤英治） お手元に前回の建設部会で配られました資料がございますけれども、確か各種スポーツの振興は入ってないけれども今回入ったと。その辺もあるのかと思いますけれども、文化の振興と各種スポーツの振興、ここの所にお答えいただければ。

教育部長（五十嵐龍一） この重点項目に3点あげさせていただきました。お話しにありましたように各種スポーツの振興というのを新たに追加しております。3つの項目をさっとご覧になった限りでは具体的にどういうことに取り組むのかまだ見えない、ということになります。有効あらしめるためにどういう事業に取り組んでいくか。個別具体的には委員のみなさんの意見をいただきながら設定をしていくということになります。重点事項の特徴的なのは、酒田らしさというものをご提起いただいているわけですが、それを受けて総合計画全体では幅広い分野で謳いこみをするわけですが、その中でも今後10年間特に力をいれて重点化ということを謳っているわけですので、目標を考えて進むべき事業ということで上げさせていただきます。そのなかでも言葉を変えれば、これまでの酒田で少し弱かったところ、これを補強し前に出る施策として取り組んでいくと。こういう言い方もできるかもしれませんが。齋藤龍彌委員がおっしゃられた芸術文化の振興、幸いに芸文協さんから先頭に立っていただいて市民活動として広範な活動をいただいているわけです。その中で文化芸術面では2番目の項目であげておりますが、先ほどの五所川原の例、新庄まつりの例もあげられました。新庄は財政的に苦しい中にありますけれども、まつりはいっこうに廃れない、むしろかつてより山車の数増がえているんじゃないかと思います。それだけ1年がかりで町内ごとに資金を出し合って取り組んでいる。町をあげての行事。大変な活力があって新庄市の元

気の源になっている。それからもう1つ似たような意味でスポーツが盛んになれば町全体に元気が出てくる、ということも言えるかもしれません。そうしたことから芸術文化は幸い各芸文協加盟のみなさんの積極的な活動で振興が着々と進んでいるということではありますが、心配なのが伝統芸能、メジャーなのが松山能や黒森歌舞伎などがあるわけですが、だんだん失われて忘れられていく伝統芸能、それから伝統行事とういうものがあります。そういうものを掘り下げて取り組んでいくことによって地域振興、まちづくりを図っていく。文化関連ではここに1つ特化させていただいたということです。そんなことで芸術文化をないがしろにすることはまったくありえない話で、芸術文化という範疇の中ではその伝統芸能、伝統行事、あるいはそれから新しいものを生んでいくということを経絡しながら10年間取り組んでいただくという提起を申しあげているところです。

部会長（佐藤英治） 関連したご意見がありましたらお願いします。

委員（小松隆二） 今の話にも関連しますが、この重点項目に今の話にもありましたが、スポーツと並んで芸術ということは大変重要で、挙げたほうがいいのではないかとというのが私の考えです。一貫教育とも関連するんですが、一貫教育というのは文科省なり全国の動向を参考にしながら、しかし、この地域の独自のものを生まないとほとんど生きていけないと思うんですね。東京などですとどうしても受験競争が前面に出ていて、こういう文化やスポーツよりも学科というものが出てくる。小中一貫教育も石原さんの都立までやるというのはほとんど受験競争ですね。それをここにもってきてもあまり生きない。また、二中学区とか五中学区の事例を見ても制度が分りにくい、協働なんていう言葉は分りにくいと思います。抽象的なものは根底にあってもいいんですが、今の芸術とかスポーツこれこそまさに小中の一貫教育として酒田なら酒田で大変特徴的に生かせるんじゃないかと思うんですね。たとえば一貫教育とは受験勉強とかプロを育てるんじゃなくて楽しく豊かにスポーツとか芸術あるいは学習を身につける意味で6年・3年ですとかなり無理がある。それを9年でやると相当面白いことができる。佐藤先生を前に失礼ですけれども、この9年間で最初は色々やらせてみる。スポーツも音楽も美術も。9年間で酒田の子どもは自分の武器、得意なものを育ててやろうじゃないかと。絵がうまい子は絵を伸ばしてやろうじゃないか。音楽が好きならばみんなに楽器を学ばせて、9年間で楽器1つ位できるようにしてあげようじゃないか。小学校6年とか中学3年だけじゃ無理で9年あるとそれが出来ると。変な建物を作るよりもそういう教育で先生を呼んで楽器を教えるにはそうお金がかからないと思うので。9年間の一貫教育でスポーツの得意な子はスポーツの面で育ててやろう、絵が好きなのは絵を育ててやろうと

か、音楽の好きな子はハーモニカとかバイオリンとかフルートとか何かそういったことを9年間なら身に付けてやれるんじゃないか、そういう一貫教育を独自に打ち出すようなこと、それができるのはスポーツであり美術とか音楽とかじゃないかなという意味で、今の芸術をぜひ入れて欲しいと思ったわけです。公益の心とかこういったものは理念的に教えるのは無理で、道徳などはいくら教科書開けてやっても無理で、むしろこういう歴史文化を学ぶ、スポーツに打ち込む、音楽に打ち込むそういったことから身に付けていくものだと思うので、酒田らしい教育で先ほども一貫した教育のしくみ作りがこれからの課題だという紹介がありました。具体的なことはこれからだと思うので、そういった中で酒田らしい一貫教育ということで、理念でなく具体的に酒田では何か子供に将来も勉強させる支えになるような音楽、芸術、スポーツを身に付けさせてやろうじゃないかという、子供のことを本当に思った計画を立てられたら、これはできるかどうか分かりませんが、素晴らしいんじゃないかと思います。

部会長（佐藤英治） ありがとうございます。

委員（柴田俊弥） 今の中でスポーツ、風土、文化を活かした人づくり、まちづくりというようなことがあるわけですけれども、例えば、郷土芸能なりは当然守っていくべきだと思うのですが、こういう講座をする何かをするという一過性のものであれば、なかなか根付かないし子供たちに教えても心に響くものがないんだろうと思います。それで私の方今日の午前中公民館の運営審議会をしておったのですが、その時にもありましたが総合学習の中で一年を通して子供たちに伝統芸能といいますか、今まではクラブ形式だったんですが、取り入れることによって色々な事を考える、あるいは何を舞いどういった歴史から出てきたのかなどそういったものも学べるので子供たちの心に残るし、発想の広がりがあると思うのでその辺もこれから考えていかなければならない問題ではないかと思っております。

それからこれから10年しますと市の人口もかなり減るという予想もされておりますけれども、健康づくりのための社会体育といいますかそういったものの需要がますます増してくるだろうというふうに思います。人口が減るということになりますと地域活動あるいは活力といった面で非常に落ちてくるといいますか元気がなくなるというふうに思いますので、そういったことも踏まえながら体育についても形にとらわれるのではなくて、何でも市民ニーズに応えていくというふうにはならないと思いますけれども、地域分散し色々な所で育てていくという方策をとりながらやっていくという必要があると思います。

部会長（佐藤英治） そうですか。体育振興会長さんとしてのご意見も入っていたように思います。実際にお子さんを育てている立場でいかがでしょうか。斎藤義明委員の方から願

いできれば。

委員（齋藤義明） 皆さんのお話を聞かせていただきながら伝統芸能というのは各学校でやられているというのは確かなんです。そういう意味でより活発化し充実するというのは非常に大事なことだと思います。柴田委員がおっしゃったようにスポーツの振興というのも伝統芸能と同じような形でやられている方々の年代層が決まってきて、若い年代層が参加しないという悩みがあるんでしょうし、確かにそういった充実が必要だと思うのですが、ただその前段として最近非常に感じる部分があるんです。というのは近年、構造改革云々という流れの中で効率化というものが我々の中にも非常に感じる部分であるんです。学校の先生方の肩を持つわけではありませんけれども、学校現場においてもそういう部分が最近見えてきたなど、それはどういうことなのかなと自分の小さいころのことを考えると、少なくとも今学校でなくなっているものというのは子供たちが放課後の時間帯で先生方と遊ぶということがなくなっていると感じています。色々な制約があるんでしょうけれども、単純な気持ちの問題として先ほどからの芸術、伝統芸能、スポーツ、全ていいんですけれども人的な補填、教育現場における人的な余裕がもう少しあれば、色々な今出ている意見をもっと充実させることができるんじゃないかなとちょっと感じているんです。皆さんご存知だと思うんですが福岡での子供の自殺の話がニュースでありましたけれども、その前に北海道でもあったわけです。それが誰が良い悪いという以前にですね、そのシグナル、サインを見落としているということが非常に問題ではないのかなと感じるんです。ですから夢、希望、確かにいいんですけれど、その夢や希望をかなえる子供たちがそういう状況にあるというのはいったい何なのか。ですからこれからの10年間の計画を策定する上で子供たちが夢、希望に向かって進めるような体制作り、この酒田でどのようなことができるのかということを入言の中に入れるような考え方ができればよいのかなと。非常にこれは難しい話だと思います。だけれども今突きつけられているのは難しいけれど避けては通れない部分、こうすれば正解だというものはないんでしょけれども、ただ先程来から地域コミュニティだと色々な話があります。その確立ができればそういうことはもっと防げるのだと思いますので、この一番のベースとなる学校での人的な話、家庭での親の教育というものをもう少し入れられればありがたいのかなと思います。ちょっと脇にそれで申し訳ありませんでしたがそう思います。

部会長（佐藤英治） ありがとうございます。

委員（齋藤龍彌） 関連しまして、私、議会だよりを見まして感銘したんですが。というのは門田議員が質問したのに教育長が答えているんですね。要するに簡単に言えば人づくりな

んです。学校とかの場合は必ず地域の話が出るんですね。要するに命の大切さについて問いかけをしたんです。そうしたところ石川教育長がこう答えているんです。教育の根本は命に対する思いや考え方を育て、人としての生き方を導いていくことだと思っている、と。今まで教育長がこういう答弁をしたことがあるのかなと思いました。こういうことが欠けているから今のお話のようなことが出るんじゃないでしょうか。私が音楽をやったのは、結局戦争で死ぬならばやりたいことをやろうということだったんですがね。私は何千年も日本の生きる根源というのは変わっていないのではないかと考えています。ですからキリストであり釈迦であり・・・が現存してますし、宗教もあると。だからですね学校で教える一番大事なものは知識よりも人間の生き方、やはり昔からの論語や人間の生き方を学びながら読み書きそるばんをやったのではないかと思うんです。それが欠けている。うちの場合も3世代で住んでますけれども、親が果たしてそのような教育をやっているのかなと、子供に対する生き方を教えているのかなと思います。そういうことが文教部会の重点項目の非常に大事なことで、一般的な基本的な問題だと思えます。公益の根源ということで松林を植えた本間家の方々の公益的な考えが今でも酒田には根付いていると思うんですよ。だから公益という考え方でここで括ったことは私はやはり酒田らしさではなかったかなと思って感服しているんです。ぜひそういうことも念頭に入れながらお願いしたいと思えます。

部会長（佐藤英治） 教育の本質に迫る大変いい話で、佳境に入ってきたという感じであり  
ます。

委員（小松隆二） 関連することで、あまり要望ばかりで申し訳ないんですが、今のご意見  
そのとおりだと思ひまして、人づくりということに対する支えはそういう人を育てる人づく  
りです。教師、指導者の側の課題をどこかに入れられないかと思ひます。子供本位の教育と  
いうこと、当たり前のことですけれどもそれを明確にするんだと。いい先生に来てもらうし  
ここで育てるんだということ。一番大切なのはやはり先生ですね。芸術をやるにしろスポー  
ツをやるにしろ歴史教育にしろ、ただやればいいというものではないし。そういう意味で子  
供の教育、人づくりに並んで大切なのがいい先生を育てなければだめだと思ひます。子供  
本位の教育をしっかりやってくれる先生をここで培うというか、そういうことを言うと失礼  
なのかどうか分かりませんが。

部会長（佐藤英治） 分りました。ただ今までに3つ程の問題が出てきたのかなと思ひます。  
1つは事務局提案の各種スポーツの振興に対して芸術文化の部分も付け加えるべきだとい  
うご意見があります。また、齋藤龍彌委員からは教育の本質は人間の生き方を教えることだと

いうご意見。さらに、そのことをしっかり成すために教師・指導者の課題を何らかの形で文言として入れていけないかということもありました。そこで座長としての提案でありますけれども、まず事務局提案のスポーツの振興の他に芸術文化を加えるかどうか検討いただくということでどうでしょうか。つまり今私達が話をしていることは会計予算でいくと款・項・目・節の款・項の段階の話をしているわけです。例えば、よい教師を育てるという部分も目・節あたりで出てくる問題ではないか。当然、その中には教職員の研修ですとか、いかによき教師として育てていくかが盛り込まれていかなければならない。そういう所にまとめるということで、とりあえずは最初の各種スポーツの振興に別立てで芸術文化の振興とするのかに絞って、先に決めさせていただきたいと思います。佐藤昌則委員いかがですか。

委員（佐藤昌則） ちょっと話がずれるかもしれませんが、色々聞いていくとまつりというキーワードで色々なことができるのかなと思いました。小松先生からありました何か楽器1つを一生懸命やるのもいいのではないかなという部分も、それこそお囃子だとか文化に基づいた部分で教育していくというのも1つだと思います。話はちょっとずれるんですがコミュニティの再生という部分でも地域と一体となってまつりに参加していただくとか学校で参加していくという部分でも交流が持てると思います。酒田には昔20mくらいの大きい山車がありました。それを復活させようとするれば今のまちづくりではだめです。これは建設的な話ですけれども、そうすると地域の景観の話とか出てきます。この町はどうしてこういう造りをしているのかなといったときに、観光客の方はなるほどおまつりもあるんだなと気づいてくれます。色んな要素でまつりという部分が使えるのかなと思っています。歴史的な部分もありますし、大項目には入らなくともいいと思うんですけれども、まつりということを経営の部分に取り入れてもらいたいなと思っています。親子の関係、コミュニティの関係、きっとできると思います。

部会長（佐藤英治） 大井委員いかがでしょうか。特にスポーツ、文化の部分でご意見があれば。

委員（大井よ志子） スポーツの振興と別に芸術文化の振興を加えた方がいいと思います。

教育部長（五十嵐龍一） 少し補足させていただいてよろしいでしょうか。委員の皆さまから大切なご意見をいただきました。先程、口短くて説明が行き届かなかった部分がありましたので補足させていただきます。今回、案として3点を提示しました。ここで共通するのは世代間といいますか世代を越えた交流でよいものを生み出していこうというのです。部会長が款・項・目といった場合にこれは大項目の款の部分だという例をあげられました

が、まさにその通りでありまして、公益の心育む学習活動の展開というのは、公益というのは小松学長さんを前に何ですが、非営利といいますかそういうことなのだろうと思いますが、そのところは幼稚園・保育園、それから小学校・中学校・高校と教育機関相互の連携ということを考えております。そこで学習活動なりよりよい生活習慣を育てていこうということ。それぞれの教育機関でやるのではなく、連携をしていこうということを根底に置いたつもりです。この中で齋藤龍彌委員から提起いただきました命の大切さ、思いやりというものも含んでいるということです。高校に入ってからでは遅いということもあるかもしれません。幼児期から一貫していこうということを含んでおります。それから、歴史・文化・風土を活かした人づくり・まちづくりもまさにそうで、地域の年代を超えて子供からお年寄りまで、大切に掘り起こしなり保存なりに取り組んでいこうということです。各種スポーツの振興については、各種とつきましたので万端のように思われるかもしれませんが、少し競技スポーツの振興に特化したイメージで考えています。中学校・高校でつながった競技スポーツの振興、いわゆるトップアスリートを育成していくための仕組みを考えていきたい、こういった内容で捉えたところです。したがってスポーツ全体の振興は総合計画と平行して策定するスポーツ振興計画の中で具体化して明らかにしていきたいと考えているところです。こんなところですが、他にも教育委員会で大切なものが入っていないものもあります。例えば、生涯学習の振興があります。こういったものも10年間で特化して取り組む必要がある内容として頭において案として設定させていただいたところです。

部会長（佐藤英治） 齋藤委員、ただ今スポーツについての提案理由といいますか、さらに詳しい説明がありましたけれどもいかがでしょうか。

委員（齋藤龍彌） ちょっと聞き逃したんですが、競技を主体的に書いたということですか、それとも全体的なものを書いたということですか。

教育部長（五十嵐龍一） 各種スポーツの振興と書きましたけれども中身のイメージとしては、一般競技のある種目の選手の育成です。あるいはスポ少なり指導者の皆さんの育成という大切なこともあるわけですが、単なる講習ではなく例えばトップアスリートから技術指導を継続してもらおうようなことです。それを中学校・高校で一貫してできるような仕組みができないか、というようなイメージでスポーツの振興を付け加えさせていただいたところです。スポーツ全般については総合計画にも謳われるわけですが、スポーツ振興計画でまた明らかにしていきたいと思えます。

委員（齋藤龍彌） お話分りました。これは細かい点になってきて、スポーツも入れなさい、芸術も入れなさいとなると羅列になってしまいますので、この趣旨に沿ったかたちで、ぜひ今のご意見等を踏まえていただければと思います。学長さんから芸術については賛成いただいたようですが、いずれにしても今のご意見を事務局でまとめていただいて、うまい具合に10年間、計画に沿ったかたちで行っていただければと思っております。自分がしゃべったので自分のところだけ入れろということになりますと収集できないと思いますので。

部会長（佐藤英治） たぶん体育、スポーツと申しまして、大きく分けると、まずは競技スポーツとレクリエーションスポーツに分けられます。今の時代というのは2007年問題に代表されます団塊の世代がリタイヤして高齢化が一層進む時代になる。そういう中において医学の分野で言いますと臨床医学から予防医学に重点が移りつつある。予防医学の一番大事なところがこのスポーツです。われわれの高血圧、高脂血症、糖尿病にしてもスポーツが食べ物と同時に絶対必要なものだということです。したがってそういう分野からレクリエーションスポーツというものも大いに推奨される時代に入ったのかなと思います。その辺も含んでこのことが提案されたのかなと思いました。今の話ですとトップアスリート、つまり元気な酒田をつくりたいという発想で出てきたということですから、このまとめとしては両方を含んだかたちで、全体をくるんだ形のスポーツの振興という形でよろしいのではないかと思います、いかがでしょうか。

体育課長（兵藤芳勝） 今の部長の話に付け加えさせていただきますと、当然、今おっしゃられた健康づくりに直結するようなスポーツの振興の方策をご議論いただきたいと思います。それに加えてこれからの10年間は、部長が申しましたように酒田らしい特徴の1つとして競技力ということで、いわゆる生涯スポーツの部分をご議論いただかないということではございませんので、説明として付け加えさせていただきました。

部会長（佐藤英治） 表現する文言としてはどうなりますでしょうか。

事務局（阿部雅治） 2つ目の歴史・文化・風土、この言葉の使い方、最初は芸術文化ということもあったんですけども、先程出ましたような伝統文化もございまして、芸術文化だけではちょっとどうかなということもありました。ということで、この中に芸術文化は含まれているというようなことで私どもは考えて、齋藤龍彌委員のおっしゃったこともこの中で十分論議していくのかなということを考えておりましたが、特に明快に入れてということになれば、歴史・芸術・文化とか逆にここの用語を変えたほうがいいのかな

と思います。

委員（小松隆二） このままではちょっとまずいのではないかと思います。歴史・文化・風土というのは歴史的な面にだけ目を向けているので、そうなれば歴史や風土また文化や芸術とかに変えないと現代にあまり続かないように思うんですけども。この並びだと歴史的な教育だけが頭に入るものですから。

部会長（佐藤英治） 齋藤委員いかがでしょうか。

委員（齋藤龍彌） はい。私もそんな感じで小松学長のお話をうかがっていました。

企画調整部長（松本恭博） 今回、事務局で各課とのすり合わせをしてこういう提案をさせていただきましたが、共通認識としてはやはり歴史的なもの、それから酒田らしさの風土的なもの、芸術文化、それから競技スポーツ、レジャースポーツといますか、それぞれみな重要な位置づけとしてとらえております。今日の皆様のご意見も踏まえながらこの文言の取り扱いを整理させていただければありがたいと思います。

部会長（佐藤英治） それではそのようにお願いしたいと思います。2番目の人づくりの問題、それから小松学長から出された問題、それぞれ公益の心等に含まれるということによろしいでしょうか。

（はい）

部会長（佐藤英治） それでは2番目、3番目についてもそのようなことでよろしく願いいたします。改めて事務局で重点項目の文言についてはご検討をいただきたいと思います。そうしますと今日だいたい予定されました審議事項3についても全て終了したということで、今のようない形で進めることでよろしいでしょうか。

（はい）

部会長（佐藤英治） ではそのようなことでお願いいたします。それでは次に移りたいと思います。その他、なにかございましたら。

---

#### 4．その他

事務局（阿部雅治） 今後のスケジュールについて申し上げます。重点項目の文言については事務局で少し整理をいたしますが、中身については今日ご審議いただいたような内容の中で詰めていきたいと思います。これは事務局でワーキングとか関係課等の会議の中で資料や中身を精査しまして、次回、審議会で審議していただくような形で、段階的に詰めていくよ

うな形で考えております。

次の段階としてですが施策の大綱、基本構想の案の作成に入っていきたい。これは12月の末から1月のはじめ位まで、案を作るので次回の審議会はその後、1月の末か2月のはじめになるとと思いますが、それにご提案をさせていただくということで考えております。また、まちづくり50人会や意見交換会などの市民意見を踏まえていきたいと思っております。その時期になりましたらご案内させていただきます。

部会長（佐藤英治） 以上、全日程が終了しましたので、これにて終了させていただきたいと思っておりますが、教育の分野はどんな些細なことも含めて、どれ1つとして大事でないものはないということです。それは1人1人の人間の生命、生活に直結している問題だからだろうというふうに思います。今、世の中で子ども達の問題行動や非行が、それらをめぐる教職員の問題も含めて発生しておりますけれども、それだけにどのように持っていけばよいのか大変難しい問題でないかと思っております。今日は長時間にわたり熱心なご議論をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。以上を持ちまして閉会にいたします。ありがとうございました。

閉会 午後3時15分